

CPT-1

東京都立小児総合医療センターにおける児童虐待への取り組み

菊地祐子

東京都立小児総合医療センター 家族支援部門 心理福祉科

当院は2010年3月、3つの都立小児病院と一病院の小児科が統合し、新たに開設された小児の総合医療施設である。開設準備段階から、院内CPTである児童擁護委員会を立ち上げ、被虐待症例の対応に備えてきた。2011年度は年間に53件の委員会が開催され、そのうち17件が病院からの職権保護となった。当日は当院でのデータや取り組みをもとに、小児専門病院が児童虐待対策に果たすべき役割や今後の課題について検討したい。

CPT-2

相模原協同病院における虐待防止委員会の現状・課題

杉谷 雅人¹⁾、中山 照雄²⁾、山田 篤志²⁾、小俣 純一³⁾、神戸 俊昭³⁾

相模原協同病院 脳神経センター¹⁾、患者総合支援センター²⁾、企画情報課³⁾

児童虐待が紙面を賑わせて久しい。私どもの病院では、平成 16 年の SBS 症候群の一例から児童虐待防止委員会が設立され、平成 19 年から市民健康公開講座の開催や病院内の研修、症例検討等を行ってきた。私自身も多機関多職種チームの一員として、児童虐待の認識を広げるべく活動してきた。しかし、病院内の職員は流動的であり、啓発活動は遅々として進まない。そこで、「社会的責任」の自覚を促す点から BSC (バランス・スコアカード) を用いて、地域の多機関多職種チームの連携を深めていくつもりである。

CPT-3

釧路赤十字病院における子ども虐待予防体制について

土屋まゆみ¹⁾、仲西正憲²⁾

釧路赤十字病院 小児病棟看護師長/小児救急看護認定看護師¹⁾、小児科部長²⁾

当院は 2 次救急医療を担う赤十字病院である。平成 20 年 12 月に子ども虐待防止委員会 (CAPS) を立ち上げた。チェックリストを活用してデータベースを作成し、ハイリスク要因がある子どもについて、委員会で事例検討をしたのち、情報共有を目的として外来カルテに段階別にマーキングをしている。委員会の設置後、赤(虐待事例)10 例・黄(ハイリスク事例)25 例・緑(早産児や育児不安など)376 例にマーキングを実施した。

当日は、口腔内の切創を繰り返す子どもの事例に対し、1 次予防の視点でどのように対応したかについて報告をし、今後の課題について検討したい。

CPT-4

東京都立墨東病院における虐待対応システムの現況

稗田 潤¹⁾²⁾、梅北信孝¹⁾³⁾、大森多恵¹⁾⁴⁾

東京都立墨東病院 虐待対策検討委員会¹⁾、医療相談係²⁾、外科³⁾、小児科⁴⁾

東京都立墨東病院は、東京都区東部を担う3次救急病院である。当院のCPTは2つの社会的波紋をよぶ事件を経験し、現在の形へと変化してきた。

特徴としては、①児童虐待・DV・高齢者虐待・障害者虐待に対応していること、②周産期の虐待予防を含めたシステムがあり「周産期支援コーディネーター」として看護師・ソーシャルワーカー2職種配置されていること、③職員啓蒙といった院内システム整備を行う親委員会とケースの緊急対応を行う子委員会で組織されていること、④ソーシャルワーカーが全ケース親面接を行っているなどがある。件数は、平成19年度19件(児童虐待11件)だったが、平成23年度208件(児童虐待203件)と年々増加している。

CPT-5

国保松戸市立病院小児医療センターにおける CPT の取り組み

小橋 孝介

鴨川市立国保病院 小児科

当センターでは平成 21 年度より小児科医師、小児救急看護認定看護師、MSW をメンバーとした CPT を小児科内に設置し活動を開始した。CPT 設置後対応件数は年々増加し、平成 23 年度は 58 件に対応している。CPT 設置前は主に生命の危機があり、児童相談所に通告するような重症事例に対応していたが、設置後は市町村へ通告・連絡を行い支援的に関わる事例が増加している。当センターにおける CPT の取り組みと今後の課題について発表する。

CPT-6

中国労災病院における児童虐待対策委員会の立上げと活動 ～現状と課題、とくに広域ネットワークの必要性について～

小西 央郎^{1), 2)}、守屋真²⁾、岩本立²⁾、青木大地²⁾、富岡啓太²⁾、宮崎真菜美²⁾
田内 志恵¹⁾、田中 寿恵¹⁾、藤原 久己子¹⁾、広瀬 伸弘¹⁾

中国労災病院 児童虐待対策委員会¹⁾
中国労災病院 小児科²⁾

脳挫傷、頭蓋内出血の生後 3 週男児を経験して児童虐待対策委員会を設置した。委員会は小児科部長、小児科病棟看護師長、安全管理師長、メディカルソーシャルワーカー、医事課長で組織。虐待疑い例発生時に検討会議を開催し対応策を協議後、病院長名で児童相談所に書面で通告する運用とした。その後前地区で虐待後当地区へ転居し、再度虐待された事例を経験、前地区での情報収集に苦慮し広域ネットワークの必要性を痛感した。

CPT-7

当院 CPT「旭中央病院家族支援チーム(Family Support Team:FAST)」について

仙田昌義¹⁾、高山美津子²⁾

総合病院国保旭中央病院 小児科¹⁾、医療連携福祉相談室²⁾

当院では平成 18 年 1 月、CPT「家族支援チーム(Family Support Team:FAST)」が結成された。平成 18 年度、虐待ケースは 10 ケースであったが、チームによる院内啓発活動を行い、各部署での虐待発見が増加。平成 23 年度には 60 ケースとなった。チームが窓口となり虐待対応を行うことによって、虐待発見から通告、告知の流れはスムーズになった。現在、当院での虐待対応の問題点としては、①保護者への対応、②電子カルテへの記載方法などであり、対応方法の検討を重ねている。

CPT-8

市立豊中病院における児童虐待対策委員会の取り組み

徳永康行

市立豊中病院小児科

当院では、小児虐待対策委員会の設立当初より、対象者のカルテに、「虐待のリスクが存在する」～「虐待を確認し介入している」のレベルに応じ3段階で識別の印を付けており、小児虐待に関する情報を共有している。また、院内の委員会とは別に、自治体の保健師との会議を定期的を開催しており、ハイリスク者の紹介や虐待事例の経過報告により、院外との情報共有を行っている。当院の小児虐待対策委員会の取り組みについて報告する。